

# '91 KURASHIKI SUMMER JAZZ FESTIVAL '91/8/7 WED

MAYNARD FERGUSON Big up  
Nouveau band & COUNT HERD jazz  
orchestra



August, 1991

Mr. Dai Matsui  
Jizoin Temple  
3-20-10 Achi  
Kurashiki-shi, Okayama-ken 710  
JAPAN

Dear Dai Sensei:

It is with great excitement and pride that World Projects is involved in the "MAYNARD FERGUSON ORCHESTRA-COUNT HERD ORCHESTRA" program on the 7th of August in Kurashiki.

I first heard Maynard perform with his big band when I was a sixteen year old high school student in San Francisco. At that time I was a student trumpet player not inspired to practice regularly (or for that matter study regularly at school) and did not have much direction in my life.

When I heard Maynard and his band, I became so inspired that I began to study hard, practice hard, and had a successful and pleasurable experience with both my music and college.

This inspiration "struck" me again when I was twenty-five years old, visiting Japan with some friends. At that time I heard Dai Matsui and the Count Herd Jazz Orchestra at a festival somewhere in the Kansai area. Upon hearing you Dai San, and your great band, and realizing you were all community players (not playing music for a living), I was very emotionally touched by your excellence and spirit, which helped inspire me to form my company "World Projects" to do tours and concerts throughout the world. I also remember at that time thinking about how the playing styles of Maynard and Matsui were similar.

Now, I am 34 years old and on the 7th of August, my dream comes true. A concert featuring both Maynard Ferguson and Dai Matsui. Two great trumpet players, leaders and human beings.

Sincerely,

  
William R. Lutt  
CEO  
World Projects



ごあいさつ

今日、ここにジャズ界トランペットの巨匠「メイナード・ファーガソンと彼のオーケストラ」をお迎えして '91 KURASHIKI SUMMER JAZZ FESTIVAL が開催されることを誠に光榮に思っております。

又、市内外より当フェスティバルにご参加下さいました皆様、本当に有難うございました。

私が高校3年生の時、仲間達とビッグバンドをやりたいと思ったことが、今日の出発点でした。以来、26年余り「少しでも良い音を……」と思い続けてやってこれたのも、多くの方のご協力のお陰と感謝致しております。

そして、その間、あこがれたプレーヤーが沢山います。

M. ファーガソンはその中で最もあこがれた1人です。

そのファーガソン側から(今回来日のUSAのプロモーターを通して)ジョイントコンサートのお誘いがあった時、私の心は昇天する程でした。

色んなジャンルの音楽がありますが、それを奏でる人・聴く人・観る人とそれぞれ立場は変わっても、一生懸命思いを込めてやっているものに出会った時、人は心をうたれるものだと信じております。

又、多種多様なイベントが多い今日、時代の環境の変化やニーズを無視することができなくなったと同時に、絶対的な価値の追求もまた、重要な課題と認識されています。

今回のジャズフェスティバルでは、より多くの皆様にJAZZのサウンドを通してJAZZの人間性にふれていただき、プレイヤーとお客様が一つの心になった「人の和」を楽しんでいただきたく企画いたしました。

又、このことが地方文化の一役を少しでも担うことが出来れば、大変幸せに存じます。

そして、開催するに当たりご協力下さいました皆様に大変感謝をいたします。

どうぞ最後までお楽しみいただきますよう願っております。

ありがとうございました。合掌

1991年8月7日

'91 KURASHIKI SUMMER

JAZZ FESTIVAL 実行委員会

代表 松井 大圓

松井大圓

MAYNARD  
FERGUSON

Maynard ferguson &  
Big bup Nouveau band

MEMBER



## Maynard FERGUSON (trumpet)

1928年5月、ケベック州モントリオール(カナダ)に生まれる。60枚を越えるアルバムをレコーディングし、数々の賞で称えられる彼は、ビッグバンド・リーダーとして、またトランペット・プレイヤーとして、まさに「生きた伝説」である。映画「ロッキー」のテーマでグラミー賞受賞の他、各地のフェスティバル・コンサートホール・ジャズクラブ等で活躍し、ジャズのみならず、映画音楽・クラシック・ポップチャートの世界でも大御所である。

90年代を迎え、メイナードはふたたびビバップ指向でアコースティックなジャズを目指して、「ビッグ・バップ・ヌーボー・バンド」を結成し、活動を始めた。



Christian JACOB (piano)

Trey HENRY (bass)

Lance DRESSER (drums)

Peter OLSTAD (trumpet)

Craig JOHNSON (trumpet)

Brian THOMPSON (trumpet)

Steve PATRICK (trumpet)

Mike FAHN (trombone)

Matt INGMAN (trombone)

Matt WALLACE (saxophone)

Chip McNEILL (saxophone)

Wayne DELANO (saxophone)

Greg BALL (saxophone)



BAND MASTER TRUMPET  
松井大圓 DAIEN MATSUI

倉敷市阿知

国立音楽大学卒業後、高野山大学卒業

音楽、トランペット、人、色々な出会い、それは人の世の不思議、大自然の不思議、それは仏縁 …一切に感謝を…



元カウントハードメンバー

GUEST TRUMPET

吉田憲司 KENJI YOSHIDA

岡山市出身

国立音楽大学卒業の後、オルケスタ・デル・ソル東京パノ  
ラマ・マンボ・ボーイズ、スタジオミュージシャンとして  
第一線で活躍中。





**A.Sax**  
**西省二 SHOJI NISHI**  
 倉敷市玉島  
 Sax一筋25年



**Trumpet**  
**福田武広 TAKEHIRO FUKUDA**  
 岡山市奉還町  
 入団して12年。今ではすっかり生活の一部となってしまいました。これからも伝統あるバンドを盛りあげる為に、ますます頑張りたいと思います。



**A.Sax**  
**時国千佳子 CHIKAKO TOKIKUNI**  
 倉敷市白楽町  
 高校を卒業してカウントに入ったのがついこの間の様に思えますが実に今年で7年目ー!! 11月には私も若者組(独身組)を卒業します。



**Trumpet**  
**大嶋成幸 SHIGEYUKI OSHIMA**  
 倉敷市玉島  
 カウントハードでみんなと演奏できて光栄です。所属歴9年になりますが今だに“肩甲骨の仲”の意味の判らないボクです。大原町はここから遠いですネ。



**T.Sax**  
**竹内一裕 KAZUHIRO TAKEUCHI**  
 倉敷市児島  
 軽い気持ちで入団したのが4年前。辛く楽しい日々を送っております。



**Trumpet**  
**小峠光生 MITSUO KOTOHGE**  
 倉敷市黒崎  
 今日の良き日をむかえ幸せな私。



**T.Sax**  
**遠藤 浩 HIROSHI ENDO**  
 倉敷市山地  
 今まで愉快なこと一杯。これからも楽しいこと一杯。



**Trumpet**  
**千田精志 SEISHI SENDAI**  
 倉敷市庄  
 明けても暮れてもトランペット。



**B.Sax**  
**小川秀憲 HIDENORI OGAWA**  
 倉敷市北浜町  
 一番前の列の一番右にすわっているやつがいるだろう。それがおれだ。



**Trombone**  
**井上 充 MITSURU INOUE**  
 倉敷市玉島  
 トロンボーンを吹き初めてうん十年。もうあきてきたが亡霊にでもとりつかれたのかやめられない。この先とても不安だ。



**Trumpet**  
**小林善美 YOSHIMI KOBAYASHI**  
 倉敷市老松町  
 青陵高校卒業後、国立音大、県警音楽隊をへて、現在マツダ音楽隊副隊長として活躍。



**Trombone**  
**石口 俊 SHUN ISHIGUCHI**  
 倉敷市児島  
 トロンボーンを吹き初めてうん十年になるがあきない。この先に不安などない。



**Trumpet**  
**山本幸夫 YUKIO YAMAMOTO**  
 倉敷市大島  
 バンドに入って十数年。気持ちは今も変わらず同じ。頑張っています。カウントハード万歳。



**Trombone**  
**西岡 忠 TADASHI NISHIOKA**  
 玉野市  
 もの心ついた時から音楽と接してきたが年々音楽のむすかしさを感じる今日このころ。クラシックもジャズもいいのだ。



**Drum**  
**藤井正明** MASA AKI FUJII  
 岡山市  
 高校に入学してからドラムを始め、現在に至る。JAZZ大好き人間。これから何年たたけるか?!! ドラムをやめる時、それが人生が終わる時!



**Bass**  
**朝倉宏樹** HIROKI ASAKURA  
 備前市新庄  
 カウントハードに参加して10年。アメリカ行きなどおいしい事がありました。そして今日も……。



**Piano**  
**亀山希依子** KEIKO KAMEYAMA  
 倉敷市中央  
 主婦業とバンドを両立させて続けてゆくのは、難しいけれど頑張ります。



**Perc.**  
**高杉彰博** AKIHIRO TAKASUGI  
 とにかくみんなが楽しそうに演奏する顔が好きです。人間の目が生き生き、楽しそうなのは何でも飛びこんでいたい主義です。



**Guitar**  
**徳田 昇** NOBORU TOKUDA  
 真備町岡田  
 カウントハードへ入って9年、フレディ・グリーンめざして、頑張っています。



(グリコのおまけ)

**嘉陽俊行** TOSHIYUKI KAYO  
 玉野市  
 人生はマンガだ。

# Message

## 夢 (Dream)

でっかい夢に金平糖位な夢、少年の頃誰もが幾つもの夢を持っていました。いつの間にか大人になりそんな夢を忘れてはいないかと立ち止まる事があります。僕の金平糖(小ちゃいけれど忘れ難い味)位の夢?憧れはNYへ行く事でした。それが先週実現しました。NY、ブロードウェイのド真中、超高層ホテルでTVを見る、画面に大寫しは年輩のカップルのダンス風景、演奏はガイロンバード風のBig Band アメリカ人は野球とハンバーガー以外に今も“Swing”が好きなようです。新聞のMusic欄を見る、飛び込んできたチャートNo.1のJAZZ Bandは“MAYNARD FERGUSON”突然そのスペルに松井大ちゃんの顔がオーバーラップ。

ファーガソンと大ちゃん——

僕が神戸での学生時代、サドジョーンズ感いはニューオリンズJAZZなどすっかりアメリカの音楽に虜になっていた頃、雑誌“Swing Journal”の特集に出ていた“Count HERD”の名前、それが大ちゃんとの出逢いです——

あれから20年、アマチュアである彼等が、ハーモニーというエネルギーで見事に今日迄演奏し続けてきたという驚き、また“生命”を感じさせるDrive感とSwing感、加えて忘れがちな貴重なアマチュアスピリット。ファーガソンの記事が一瞬のうちに松井大ちゃんにオーバーラップさせるのは僕には極めて自然な事といえます。一人の音楽少年はとてつもないトランベットの音を出すM、ファーガソンというアメリカの音楽家に心を奪われ、尊敬してやみませんでした。

1991年、Aug.7日、その少年が生まれ育った倉敷という街でその巨人とJointする事になりました。その少年のでっかい、しかも金平糖のような懐かしい甘味を持つ夢が今日叶う事になります。これだから“人生”というもののやめる事ができません。

DREAM COMES TRUE. 大ちゃん、しっかり吹いて下さい。

岩根宏行



## 松井さんに感謝

カウントハードが永い歩みを続けている。その原動力が松井さんの情熱であることは、倉敷のジャズ・ファンなら誰でも知っています。

松井さんのあの庶民性はとて魅力的ですし、その音楽性はメンバーを引き付ける力を持っていますし、ジャズへの造詣の深さは周囲の人を虜にしています。ですからカウントハードは、松井さんが育てたというのは、言葉が少し違うかも知れませんが、松井さんがいるから勝手に育ててしまったのでしょう。

松井さんのお話を聞くと、民衆に根ざしたジャズに傾倒し、ジャズこそ最高の音楽とする彼の心情がよく解かります。そのハートが聴衆にも伝わってきます。

待望のアーティストを迎えて心はずませながらも、松井さんはきっと普段着の演奏をされることでしょう。

アイビースクエアを離れて1年を迎える私ですが、こんなすばらしい会が持たれることを心から誇りと思います。そして松井さんに感謝。

狩野輝男

## ジャズを語られる熱情に接して

松井さんがカウントハードをはじめられてもう20年にもなるのですが、ジャズにあまり縁のない私は、その演奏をほんとうに時折りしか聴かせていただけていません。パーカッションに熱をあげている末娘などは、松井さんの大ファンで、他の計画を犠牲にしてもその演奏会に出かけておりました。それでも私には、少々縁の遠い存在のような気がしていたのです。

私が松井さんのファンになったのは、ご一緒にある会を計画させていただいた一年程前からです。その時に接したお人柄とジャズを語られる熱情に接して、いっぺんに身近な方になってしまいました。はやりの言葉で言えば、“ジャズこそ究極の音楽！”と信念を持って取組んでいらっしゃる松井さん、本場から敬愛するメイナード・ファーガソンさんを迎えてどんなに素晴らしいトランペットを聴かせて下さるでしょう。そして一段と飛躍のチャンスとされるに違いありません。

大賀紀美子

## ジュズとJAZZ

もうかれこれ20年以上も前の話。僕もその頃は、ジャズ狂の紅顔の美青年であった。新宿の、とあるジャズ喫茶の常連で、学校をサボってよく行ったものだ。ある日のこと、そこで突然、M. ファーガソンのアルバムがかったのである。

それは、“The Blues Roar”（日本名ブルースの炸裂）という一枚であった。気に入って、さっそく購入し、下宿に帰って階下を気にしつつ、メソピアノぐらいで聞いてみたら、期待したほどの炸裂はなかったのである。

破れ襖に、安ステレオではジャズ喫茶のアルテックに勝てるわけではないのだった。

しかし、それ以来、M. ファーガソン＝ブルースの炸裂的サウンドという僕なりの図式ができたのだ。

話かわって、僕の同級生の松井君が、このM. ファーガソンを倉敷に呼ぶという。更に、あろうことか同じステージで同格に競演するということで、ムムツ……これはマコトであろうかと思っているのである。とにかく、これが実現すれば、倉敷におけるJAZZの歴史に偉大なる1頁を記すことになるであろう。

さて、その松井君は、僧侶という高貴な身分にありながら、ジュズならぬジャズを通して、地域文化を担っている男である。今後もぜひ60年代の本格派名プレーヤーを招いて、古き良き時代のジャズを聞かせてもらいたいものだ。

大久保憲作

## 近頃、愉快的こと

大ちゃんこと松井大圓さんがトランペットを吹き始めて26年になるという。何事も続けるということは、たとえ続いたという結果であったとしても、たいしたことだと思う。26年の内には、カウントハードという、ジャズバンドを率いて、日本有数のアマチュアバンドに育て上げてしまった。先日久し振りに演奏を聞くチャンスがあり、若々しく張りのある音の中にも何だかシットリとした落ち着きと余裕が感じられて、自分が育てた訳でもないのにいたく満足させられてしまった。外野から見ていて、父上が亡くなられた時、彼のトランペット人生もこれで終わりかなと勝手に思っていたが、どうして僧侶と幼稚園の園長という要職をこなしての活躍は立派という外はない。今回、平素から信奉していたメイナード・ファーガソン氏との共演が実現するという心からの祝福と今後の増々の御発展をお祈りする次第です。

内山貞和

**PART I**

---

*Count head Jazz orchestra*

**PART II**

---

*Maynard ferguson &  
Big bup Nouveau band*



**PART III**

---

*M-f & C-h Joint*



有限会社 **かっぱ**  
倉敷市阿知2丁目17番2号  
TEL 22-0440

**菊 舞 じ**

倉敷市阿知3丁目20-29  
電話(0864)24-5494番

STEINWAY  
**MAN TO MAN**  
SNACK  
**MAN TO MAN**

〒710 倉敷市中央1丁目7-1 TEL(0864)24-9110

〒710 倉敷川西町7-27 TEL(0864)25-1878



屋号 **「新粹」** つね家  
株式会社 粹来亭  
Tel. (0862)22-5171

スナック **伊呂波**  
☎27-5568

スナック **粹 膳**  
倉敷市阿知2丁目435-1 エトワールビル5F  
Tel. 26-8819

**FLOWER BAR**

倉敷市阿知3-12-2 T&T 2F  
Tel (0864)27-6028

**やきとり人生**

倉敷市中央2丁目3-22 TEL22-6265



SAPPORO

なるほど、麦芽の純度。

サッポロ生ビール

**吟仕込**



麦芽のまん中を  
ていねいに仕込んで  
誕生です。

サッポロビール株式会社 ●未成年者の飲酒は法律で禁じられています

一番搾り麦汁のみのひとつ上のビール

**キリンプレミアムビール**

倉敷の地酒

**正義櫻**

**なかのバナソニック**

住所 倉敷市幸町11-29  
TEL 22-1159

**菓仙 錦 盛 堂**

☎711 倉敷市児島下の町10丁目374-8  
TEL (0864)代)724856 FAX (0864)724861

(株) **VAL88**

Tel. 0864-24-1534

EXCITING CONVENIENCE STORE

**ABOX**

倉敷市安江394-2 TEL (0864)27-0178

# GRAFFITI



jazz

### THE COUNT HERD ORCHESTRA

Japan has been opening its arms and recording studios to American jazz musicians for quite some time, including many of the artists in the Jazz Festival this year. To play their love for jazz, the Count Herd Orchestra was formed in Japan in 1966 by Dai Hisazumi Matsui. A Buddhist Priest and Chief of a Kindergarten, he learned trumpet by listening to Maynard Ferguson recordings, among others. Originally all high school students, the other members now range in age from 16 to 40, and lead double lives as jazz instrumentalists by night and businessmen, policemen, university and high school students, and elected officials by day. They are considered a "mature" band with a repertoire of 150 jazz pieces, mostly the works of Ferguson, Woody Herman and Count Basie, with some Matsui and local originals as well. Coming out of roots in American Big Band Jazz, there is another kind of fusion going on here: a fresh interpretation of American jazz with an optimistic outlook.

The Count Herd Or



# ジャズ爛漫。



Thank you for coming....

## ■ STAFF

Thanks thanks thanks ..... our stuff !!

KURASHIKI IVY SQUARE

STAGE OKAYAMA

SHINKO PRINTING CO..LTD.

WORLD PROJECTS BILL RATT, DAVE MURRAY

WORLD PROJECTS JAPAN YOSUKE KUROSAKA

ED SARGENT (road manager)

BRUCE GALLOWAY (sound)

## ■ 実行委員会

TERUAKI MATSUMOTO KAZUO TAKAYOSHI

ISAO KAMOI MASAO IMAI

TAKASHI MIYAKE DAIEN MATSUI

SHOJI NISHI MITSURU INOUE

KAZUHIRO TAKEUTI



COUNT HERD  
JAZZ ORCHESTRA  
JAZZ ORCHESTRA